

## 2023年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

### 1 活動概要

活動団体名	建築・アーバンデザイン（佐々木宏幸）研究室
活動テーマ	東京渋谷との都市間連携を通じた 飯田市中心市街地活性化、及び南信州地域の振興
活動期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日
主な活動場所	長野県飯田市および南信州地域
連携地域 連携団体等	長野県飯田市、高森町、阿智村、根羽村、平谷村 合同会社 nom、ハナブサレザー、梓設計企画
活動者数	18名 ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

## 2 活動内容 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

### ■地域が抱える課題

建築・アーバンデザイン研究室は、長野県南信州地域が抱える2つの主要課題解決に向け、継続的に取り組んでいる。

①**飯田市中心市街地の空洞化**：地方都市では近年、人口減少・高齢化などの進行により、市街地の空洞化が深刻な課題となっている。飯田市においても郊外への人口流出が進み、空き家率は15.8%（飯田市空き家等対策計画第1回改定資料）と全国的に見ても高い割合となっている。空き家・空き店舗の増加による中心市街地の空洞化は飯田市全体の衰退を招いており、早急に解決すべき課題である。

②**未活用の地域資源**：農作物に被害をもたらす害獣としての鹿や放置竹林は、南信州地域の重要な課題である。一方、鹿や竹は、活用次第では地域特有の貴重な資源となり得るが、それらを活用する市場や循環型経済システムの不在により、潜在的価値がほとんど活かされていない。

### ■活動に期待される効果

研究室は上記の地域課題に対し、以下の活動を行い課題解決や潜在的の可能性の活用を目指している。

①**空間資源の活用による中心市街地の活性化**：中心市街地橋北地区の春草通りの北端にある空き家（安東邸）の活用を検討し、地域に開かれた施設の整備を進める。空き家活用のプロセスを地域住民に公開し、空き家活用の可能性を可視化することで、地域における今後の空き家・空き店舗の活用を促進する。同時に春草通り南端にある旧飯田測候所の指定管理者制度導入による活用を地元と連携し検討している。これら2つのパイロットプロジェクト、及び現在飯田市と検討中のりんご並木の再整備を契機に、橋北地区の主要街路である春草通りが活性化するとともに、中心市街地全体の活性化にも繋がる。

②**未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築**：建築・都市デザインを学ぶ学生のデザインスキルを活用し、南信州地域特有の資源である鹿革や竹を使ったプロダクト開発を通し、地域資源の価値化と地域のブランディングを行い、地域スケールの循環型経済を構築する。鹿に関しては、学生がデザインした鹿革のプロダクト制作を通し、新たな雇用を地域に生み出すと共に、クラウドファンディングで販売し、収益を地域に還元する。竹に関しては、竹を使った家具の制作ワークショップを実施し、竹活用の可能性を提示する。さらに、制作した竹の家具を地域の公共施設などに設置し、地域課題に関する人々の認識を高める。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。）

### ■これまでの活動

研究室は2017年度に長野県飯田市でまちづくり活動を開始した。飯田市中心市街地橋南地区にある空間資源「裏界線」に着目し、飯田市や地元のまちづくり関係者と協力しながら裏界線を活用したイベントを3回行った（写真1）。また、2018年度には裏界線沿いの空き家の活用方法や飯田市中心市街地の空間的将来像の提案を通して当該地域の課題と可能性を提示した。コロナ禍を経て2021年度からは中心市街地の歴史的地区である橋北地区にも活動を広げ、橋南地区での活動で築いた人脈を活かしながら活動している。春草通り沿いの空間資源の活用可能性を示すイベント「春創てらす」、旧飯田測候所に焦点を当てた「光のてらす」を各2回開催した（写真2、3）。これらのイベントを通じた賑わいを創出し、地域住民に地区の活性化や空間資源活用の可能性を提示し、高く評価された。これらの活動は、今後進めてゆく空間資源の恒久的活用へと繋げる取り組みである。また、昨年は竹を活用した家具製作の前段階として、飯田市の下伊那農業高校と連携して、竹を使用した鶏小屋の製作を行った。（写真4、5）

さらに、飯田市と防災協定を締結する渋谷区の穂田キャットストリートで開催されるイベントであるアップルロードマーケットの運営に2017年度より過去4回参加し、飯田の特産品のりんごやシードルの販売を行った（写真6）。また、2022年11月には同イベントと同日開催で、飯田市のまちづくりに取り組む人々に焦点をあてたイベントを原宿駅前の商業施設WITH HARAJUKUで行った（写真7）。このように、飯田市と渋谷区の都市間連携の促進を目的としたイベントも複数回実施している。



写真1：裏界線の可能性を示すイベントの様子



写真2：「春創てらす」の様子



写真3：「光のてらす」の様子



写真4：竹鶏小屋完成品



写真5：竹鶏小屋の取組は、新聞にも取り上げられた。



写真6：アップルロードマーケットの様子



写真7：地元プレーヤーに焦点をあてたイベントの様子



■活動目的を達成するための具体的な計画や方法

本年度は、活動目的に記載した地域課題解決のため、以下の活動を行う計画である。

①空間資源の活用による中心市街地の活性化

- ・2023年5月に、飯田市橋北地区春草通りに面する空き家の安東邸で、家主の安東氏、飯田市、地元建築家の梓設計企画 林城仁氏と連携し片付けを実施した。研究室は、片付けを主体的に実施するとともに、飯田市と連携した地域住民への周知や見学会を実施し、空き家活用の可能性を広く可視化する役割を果たした(写真8)。今後は、飯田市、地元まちづくり委員会、梓設計企画などと連携しながら、空き家改修のための補助金受給、及び、活用方法の検討を主体的に行っていく。
- ・飯田市橋北地区春草通り沿いにある旧飯田測候所を中心市街地の拠点のひとつと位置づけ、飯田市と議論を重ねながら地元のまちづくり委員会との調整方法を検討している。また、合同会社 nom 折山尚美氏と協働し、旧飯田測候所の活用方法の提案をソフト・ハード両面から行う。

②未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築

- ・ハナブサレザー 木下英幸氏や阿智村・根羽村・平谷村の協力を得て、研究室が主体となり鹿革を使ったプロダクトを制作し、クラウドファンディングサイトで販売を行う(写真9、10)。これにより有害鳥獣の問題を広く発信するとともに南信州地域のブランド化を目指す。
  - ・竹を使用した家具をデザインし、それを制作するワークショップをハナブサレザー 木下英幸氏と共同で開催する。制作した家具は、飯田市や南信州地域の公共施設に設置する計画である。これらの取り組みを契機に、竹の様々な活用を検討し、放置竹林問題の可視化と解決を目指す。
- これらの活動を次年度以降も段階的、継続的に行い、最終的には地域主体の課題解決、地域内循環システムの構築、新たな産業創出へと繋げてゆく。



写真8：片付けの様子は、新聞にも取り上げられた。



写真9：阿智・根羽・平谷村長との意見交換を行った。



写真10：意見交換の様子は、新聞にも取り上げられた。

## ■申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割

- ・研究室は 2020 年度から飯田市と委託契約を交わしている。まちのデザイン研究、空き家・空き店舗活用、地域ブランド発信の 3 つの事業を委託され、上記の活動を継続的に行っている。
- ・所属学生の一部は、飯田市歴史研究所から助成金を受託し、飯田市をフィールドとした卒業研究に取り組み、学術的な側面からも地域課題の解決に向けたアプローチを行っている。
- ・代表者は飯田市新文化会館検討委員会の学識委員を務め、リニア開通に伴う変化を考慮しながら、新文化会館の基本構想の策定に携わっている。
- ・南信州地域をフィールドとした活動は、飯田市、高森町、阿智村、根羽村、平谷村、地元のまちづくり関係者、建築家、革職人などと連携し、産学官民連携で行っている。

## 活動スケジュール

### ■今年度の活動

4 月：阿智村、根羽村、平谷村との連携開始。

5 月：安東邸片付け開始。

6 月：鹿革プロダクトのクラウドファンディングサイト掲載。竹活用ワークショップ準備。

7 月：安東邸片付け完了。旧飯田測候所活用の企画書完成。竹活用ワークショップ開催（7 月 8 日）。

8 月：安東邸活用方法と補助金受給の検討。鹿革プロダクトの販売開始。

阿智・根羽・平谷 3 村と連携した鹿、竹の活用方法の検討。りんご並木再整備の検討。

9 月：南信州と東京の交流イベント「U know? Market」を下北沢ポーナストラックにて開催。（9 月 23 日）

### ■本助成金を利用した活動

9 月：鹿革プロダクト販売に向けた地域の方との打ち合わせ、今後の展開に向けた地域の方との打ち合わせ、昨年度製作した竹鶏小屋の修理作業。（9 月 5 日～6 日）

旧飯田測候所活用に向け、飯田市主催の講座として、飯田市や地元まちづくり委員会との協働により、地元住民に対し研究成果のプレゼンテーションおよび意見交換会を開催。（9 月 30 日～10 月 1 日）

10 月：鹿革プロダクト販売に向けた地域の方との打ち合わせ、安東邸から出てきた歴史的写真の保管に関して飯田市歴史研究所、梓設計企画 林氏、家主の安東氏と協議を行う。（10 月 20 日～21 日）

11 月：鹿革プロダクト製品制作に向けた地域の方との打ち合わせ、竹の活用に向けた長野県南信州地域振興局および南信州の阿智村・松川町・豊丘村・高森町関係者との打ち合わせ。（11 月 1 日～2 日）

下伊那農業高校と竹の活用に向けた打ち合わせ、鹿革プロダクト製品制作に向けた地域の方との打ち合わせ、阿智村打ち合わせ（11 月 7～8 日）

12 月：安東邸活用に向けた現地視察および現状確認、鹿革プロダクト製品制作に向けた地域の方との打ち合わせ（12 月 7～8 日）

## 活動成果

### 1. 2023 年 9 月 5 日～6 日 飯田市での活動

#### ①空間資源の活用による中心市街地の活性化

・2023 年 5 月に実施した安東邸の片付けで出てきた、飯田大火の様子を写した写真の取り扱いについて、9 月 5 日に家主の安東氏、梓設計企画 林氏、9 月 6 日に飯田市担当者とそれぞれ打ち合わせを行った。また、今後の安東邸の活用方法についての検討も行った。（写真 1）

・旧飯田測候所の活用に向けた地元との調整を目的として、地元のまちづくり委員会役員や地元住民らへ活用に向けた説明会を実施するため、飯田市関係者と事前打ち合わせを行った。（写真 2）



写真 1：安東邸の写真に関する打ち合わせ



写真 2：旧飯田測候所の活用イメージ提案



## ②未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築

- ・応援購入サイトで鹿革を使ったプロダクトの販売を行うため、9月5日に制作にご協力をいただいている地域の方と製作工程についての打ち合わせを行った。(写真3)
- ・昨年度、竹を活用した家具製作の前段階として、飯田市内の下伊那農業高校と連携して、竹を使用した鶏小屋の製作を行った。訪問では、接合部が緩んで歪みが生じていたため、その修理を行った。(写真4)



写真3：鹿革プロダクト製作工程打ち合わせ



写真4：昨年度製作した竹鶏小屋を修理

## 2. 2023年9月30日～10月1日 飯田市での活動

### ①空間資源の活用による中心市街地の活性化

- ・旧飯田測候所の活用に向け、地元との調整を目的として、地元のまちづくり委員会役員や地元住民らへの説明会を9月30日に実施し、地元の方々や飯田市の関係者の方々と意見交換を行った。(写真5、6)

### ②未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築

- ・応援購入サイトでの販売が終了し、製作するフェーズに入った鹿革プロダクトに関し、9月30日に制作にご協力をいただいている地域の方と製作工程の大きな流れについての打ち合わせを行った。(写真7)
- ・今後の鹿革プロダクト展開に際し、未活用の地域資源活用に向けて、飯田市下久堅地区にあるひさかた和紙の里を訪問した。ひさかた和紙の歴史をお伺いし、和紙の作り方を体験することで、今後の展開に繋げていく。(写真8)



写真5：旧飯田測候所の活用に向けたプレゼンテーション



写真6：旧飯田測候所について地域の方との意見交換



写真7：鹿革プロダクト製作工程打ち合わせ



写真8：ひさかた和紙の製作体験

### 3. 2023年10月20日～21日 飯田市での活動

#### ①空間資源の活用による中心市街地の活性化

・2023年5月に実施した安東邸の片付けで出てきた飯田大火の様子を写した写真について、安東邸にて実物を見ながら、飯田市歴史研究所、飯田市美術博物館、梓設計企画 林氏、家主の安東氏と写真の取り扱いや今後の展開を協議した。（写真9）

#### ②未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築

・鹿革プロダクトの製作に向けて、製作工程や実際に製作を開始した後の細かな調整に関して、制作にご協力をいただいている地域の方と打ち合わせを行った。（写真10）

・今後のプロダクトの展開に向けて、古着のリメイクを行っている地域の方と試作品や方向性について打ち合わせを行った。（写真11）



写真9：歴史研究所や美術博物館の方々との協議



写真10：鹿革プロダクト製作工程打ち合わせ



写真11：古着リメイクの方との打ち合わせ



#### 4. 2023年11月1日～2日 南信州での活動

##### ②未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築

- ・竹の利用促進の今後の展開に向けて、地域の方の協力のもと阿智村・松川町・豊丘村・高森町の関係者と打ち合わせを行った。（写真12）
- ・実際に竹を乾燥した実例や竹に火入れを行っている地域の方を訪問し、竹の利用に関して実地での知識を深めた。（写真13）



写真12：竹の利用促進に向けた打ち合わせ



写真13：竹割りの体験

#### 5. 2023年11月6日～7日 南信州での活動

##### ①空間資源の活用による中心市街地の活性化

りんご並木の社会実験と安東邸の活用について飯田市関係者と打ち合わせを行なった。

##### ②未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築

- ・竹の一次産業活用に向けた前段階として昨年竹鶏小屋で協働した下伊那農業高校と竹ビニールハウス制作に向けた打ち合わせを行なった。（写真14）
- ・鹿革ペンホルダーの商品の制作において、制作にご協力をいただいている地域の方と製作の途中段階で生じた問題点において改善策を議論した。（写真15）
- ・鹿革プロダクト HP 販売の終了に伴い、ご協力いただいた阿智村への報告と今後の展開を協議した。また竹のプロダクトを通じた竹の利用促進に向けて意見交換を行なった。（写真16）



写真14：下伊那農業高校との打ち合わせ



写真15：鹿革プロダクト制作工程打ち合わせ



写真16：阿智村への鹿革プロダクト販売終了の報告



## 6. 2023年12月7日～8日 南信州での活動

### ①空間資源の活用による中心市街地の活性化

・安東邸の現地視察を行い、内部の現状把握を行なった。また、今後の活用可能性に関して家主の安東氏と議論を行なった。（写真17）

### ②未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築

・鹿革ペンホルダーにおいて製作にご協力いただいている地域の方から完成した製品の一部をいただき、検品を行い、今後の残りの制作における打ち合わせを行なった。（写真18）

・竹の乾燥機を所持する根羽森林組合にて竹の乾燥・加工について意見交換を行うとともに乾燥した竹を用いた土木利用事例を通して実地での知識を深めた。（写真19）

・喬木村の伝統工芸品である阿島傘伝承館・資料館の見学を行なった。また、製造を行う菅沼商店の見学と、現在研究室が製作している鹿革を傘に取り入れる方法や可能性について意見交換を行なった。（写真20）



写真17：安東邸内部の視察



写真18：鹿革ペンホルダーの打ち合わせ



写真19：根羽森林組合での意見交換



写真20：阿島傘製造者 菅沼商店さんとの意見交換

### ■総括

南信州での活動を通して、南信州の地域振興に関して以下のような成果が得られた。

#### ①空間資源の活用による中心市街地の活性化

・安東邸の恒久活用に向けて、飯田大火の様子を写した写真について取り扱いが決まった。  
・旧飯田測候所の活用に向け、地元住民との間で説明会や意見公開を行うことで活用への機運を高めることができた。

#### ②未活用の地域資源活用による地域ブランディングと循環型経済の構築

・鹿革プロダクトの製作に関して、制作にご協力をいただいている地域の方との打ち合わせを行い製品の改良を行なった。

・竹の南信州での活用促進に向けて、これまでの研究室の動きを関係者に説明した。

・ひさかた和紙、阿島傘など、鹿革と竹以外の地域資源を見出し、今後の活用方法や可能性について関係者と意見交換を行なった。